

《口頭発表》

## 保育士養成校のピアノ実技指導におけるホスピタリティの重要性

The importance of the hospitality in piano actual technique guidance  
in a nurture teacher education school

鈴木佑未子(千葉敬愛短期大学)

Yumiko SUZUKI

(キーワード)

ピアノ実技、音楽教育、ホスピタリティ

### 1. はじめに

保育士養成校のピアノ実技指導において、技術的(technique 英)な指導だけではなく、その極度の緊張や「どうせできない。」という思い込みの壁を緩和する必要があると考えた。

各々の学生が、保育技能としてのピアノ演奏技術、弾き歌いの実力をつけるために担当教師に何ができるか、また必要かを、平成26年度入学の筆者担当学生のレッスン記録を元に考察し発表した。

### 2. 概要

「緊張するな。」と言って緊張しなくなるのなら問題はない。多くの場合、練習が十分でないという事実と、その事実に対し一人で対応しなければならないこと、教員から何を言われるだろう、傷つきたくないという自己防衛の気持ちと不安から極度の緊張に陥るのではないかと推測した。また、今まで集団の中の一員として授業を受けていた生徒が、養成校で初めて個人レッスンを受け、学生として教員と1対1で向き合う重圧も大きな要因と考えられた。

将来的に子ども達の前でピアノを弾き歌うことが必要な学生たちの、その緊張に対し、ただ声をかけるだけでなく、どのように具体的に働きかけることが良いか。或いは、緊張を取ることができずとも、受け入れて前向きに対処できるようにな

るか。ポイントを8点に絞って授業内で試み、その結果をまとめた。

### 3. まとめ

授業の中で心がけていたことが、最終的にホスピタリティ(hospitality 英)に通じていた。サービス(service 英=奉仕)とは違い、共利共生共存のホスピタリティを持って授業を実践することで、完全に緊張が取れることはなかったにしても、学生自身の「どうせ弾けない。」という自己否定が軽減し、時期の個人差はあったが練習に向かう姿勢に変化が見られた。

より良い授業を行うには、教員が一方的に自分の知識や技術を伝え、それに応えられない原因が学生にあると決めつけるのではなく、その立場に応じた学びを、教員と学生が共に行っていくこと、教員同士のFD活動、または教科の連携が非常に重要であると考えに至った。